

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ~7日	2月 ~14日	2月 ~21日	2月 ~28日	3月 ~7日	3月 ~14日	3月 ~21日	3月 ~28日	4月 ~4日	4月 ~11日	4月 ~18日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	14	10	14	27	29	29	38	41	42	21	19
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	11	6	6	2	8	10	19	15	15	4	16
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	2	0	0	3	1	0	1	1	1	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	6	4	4	2	6	9	11	7	8	3	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	4	2	2	2	2	6	4	3	5	5	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	0	0	1	4	1	3	1	1	4	3	3

* その他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第15週(4月12日~4月18日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	8	結核	8	2		2		4		
三類	0	発生なし	0							
四類	5	重症熱性血小板減少症候群	1	1						
		レジオネラ症	1				1			
		日本紅斑熱	3				1	1	1	
五類	2	ウイルス性肝炎	1							1
		梅毒	1				1			
新型コロナウイルス感染症	172	新型コロナウイルス感染症	172	14	11	4	0	113	3	27

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第15週に合計113件の報告があり、増加が続いています。全国的にも増加しており、従来株よりも感染のしやすさや、重症化しやすい可能性が指摘されている英国型変異株の割合が上昇しています。広島市でも、3月以降に、変異株検査を実施した感染者のうち、変異株であった割合は4割を超えていました。また、感染が多い地域との往来や会食、飲食店に関連した感染が増えています。今後、急速に感染が拡大するおそれがありますので、一人一人がこれまで以上に基本的な感染対策を徹底することが大切です。

正常性バイアス (人間は、自分にとって都合の悪い情報を過小評価してしまうことがあります)

自分には感染しない
 ↓
感染リスクの高い行動
 ↓
 自分には関係ない

- 体調が悪いときは仕事を休み、身近な医療機関を受診しましょう。
- 会食は、感染対策をとっている店を選び、短時間、少人数で。会話をするときにはマスクを着用しましょう。
- 感染者が多い地域との往来は避け、やむを得ず往来した場合は、無症状であっても積極的にPCR検査を受けましょう。

自らも感染し得る強力な感染症であるということを、改めて強く意識する必要があります

2 感染性胃腸炎

定点当たり9.00人の報告があり、前週と比べて増加しました。4月に入って2件の集団発生が報告されています。

3 日本紅斑熱

今年初めての報告が1件ありました。日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに咬まれることで感染します。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着るなど、肌を露出しないように注意しましょう。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注) 過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注) 過去5年間	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	1.33		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.12	
	咽頭結膜熱	8	0.33	0.30			RSウイルス感染症	-	-	0.34	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	2.00		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	216	9.00	6.67	▲		流行性角結膜炎	6	0.75	0.70	
	水痘	4	0.17	0.21		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	-	-	0.58			無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	-	-	0.29			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	6	0.25	0.34			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.09			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	1.26	

急増減 ▲ (前週と比較しておおむね1.2以上の増減)

増減 ▲ (前週と比較しておおむね1.15~2の増減)

微増減 ▲ (前週と比較しておおむね1.1~1.15の増減)

横ばい ⇄ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	34	50歳代・1人、70歳代・1人、80歳代・2人
4	日本紅斑熱	1	1	70歳代
4	レジオネラ症	1	7	70歳代
5	梅毒	1	14	20歳代